

# 中津ゆうび有限会社



## なかぼつと連携し スムーズな雇用を実現

ゆうびグループの一員である「中津ゆうび」は、中津・日田に拠点を置き、廃棄物処理およびリサイクル事業者として循環型の実現に貢献しています。

そんな当社が障がい者雇用を始めたのは3年前、日田支店で精神障がいのある方を雇用したのが最初でした。その後、前職で障がい者雇用尽力していた伊藤さんが入社したことで障がい特性や障がい者雇用に対する理解が進み、現在は中津・日田で4人の障がい者・知的・精神・身体が働いています。



▲総務部長 伊藤広光さん

めているため、障がい者雇用におけるトラブルはほとんどないといいます。「昨年、中度的障がい（B1）の方を雇用しました。会社としても、私自身もB1の方と接するのは初めて。勉強を重ね、事前に本人や保護者の許可を得た後、障がい特性をまとめた資料を現場スタッフに共有しました。その際、口頭でも通常より作業に時間がかかる、思ったことをそのまま口に出すことが多いなど、具体例もじっくり伝え、現在も現場スタッフが不安や疑問を抱え込まないような雰囲気づくりを大切にしています。」

## 障がい者雇用が 人手不足解消の一手に

選別の現場に高齢者が多い「中津ゆうび」では、障がい者雇用が人材、特に若手の確保に大きな成果をあげています。これは人手不足に悩むさまざまな業界に新たな可能性を示すものといっ

「前職で障がい者雇用を長く担当していた経験から支援機関との連携の重要性は十分に把握していました。そのため、現在は主になかぼつ（障害者就業・生活支援センター／中津）…すまいる、日田…

はぎの経由で雇用を行っています。最近入社した方も障害者就職面接会で出会った後、なかぼつに登録してもらいました。就労面はもちろん、私たちがなかなか踏み込めない生活面までサポートしてもらえるので助かっています。また、雇用前の段階では、特別支援学校とも実習受け入れやワーキングフェアを通して関わりを深めています」と伊藤さん。こうした支援機関や特別支援学校との連携が、迷いなく採用に踏み出せる体制づくりを支えています。

### 支援機関・特別支援学校との連携

- なかぼつ  
就職希望者の紹介、生活面・就労面のサポート  
※ほか、ハローワーク、大分障害者就業センターなど
- 特別支援学校  
実習の受け入れ、ワーキングフェアへの参加  
※雇用前には本人・保護者、なかぼつ・特別支援学校などと数回情報共有を合わせ、入社後の連絡を確実

ても過言ではありません。

「選別の現場では適性さえ合致すれば、誰もが戦力として活躍できます。つまり、健常者にこだわる必要がないんです。むしろ障がい特性によって集中力が高かったり、繰り返し作業が得意だったり、選別に向いている方も多し。前職の工場でのライン作業もそうでした。障がい者の力が活かせる現場は他の業界にもまだまだあると思います。最初は現場に戸惑いが生まれるかもしれませんが、まずは一人受け入れて、できることが分れば、周囲も自然と納得してくれるはずです。」

すでに法定雇用率を上回る障がい者を雇用している同社。障がい者雇用には支える人材の存在も不可欠なため、すぐに雇用を増やすことはできませんが、障がい者雇用そのものには意欲的です。今後は、新規受注や設備の更新事業拡大のタイミングに合わせて、支援機関と協力しながら、新たな仕事の切り出しにも挑戦したいといいます。最終的な目標は「豊の国雇用促進フェスタ」の知事表彰を受けること。障がい者雇用において、地域の模範となる事業所を目指しています。

## 障がい種別や適性に 合わせた業務で能力を發揮

障がい者スタッフが主に担当しているのは回収された廃棄物の選別作業。一口に選別といっても方法はさまざま、障がい種別や適性に合わせて担当を決めています。

「例えば、知的障がいのある方は時間ばかりですが、最終的に複雑な選別もすっかり覚えてくれることが多い。焦らず、じっくり教えています。精神障がいのある方は曖昧な部分の判断・判別が苦手な傾向があるため比較的単純な選別作業を、身体障がいのある方は体に負担のない動作でできる作業を中心に任せています。」

雇用前に当たってはトライアル雇用（特別支援学校の生徒は実習）も活用。実際に現場に受け入れ、適性や能力、できること、できないことを見極めることで入社後のミスマッチをなくし、障がい者であっても「1人分の仕事」を担

## 理解ある現場で 働きながら成長

日田支店で働く日隈さんは昨年12月に障害者就業生活支援センターはぎの紹介を受け、1週間の職場実習を経て入社しました。現在はグループホームで暮らしながら、主にピンの選別作業を行っています。「職場実習の際にみなさんが優しく教えてくださり、ここで働きたいと思いました。選別にはスピードが求められるのでピンを手に取る、同時に、次のピンを見て、取っ…の繰り返し。大変ですが、きちんとできたときには達成感があります。目標は作業の幅を広げること。特に破砕機を使った作業に挑戦してみたいと思っています。ケガに気をつけながら、まずは自分がどこまでやれるか試したいです。向上心ある日隈さんは入



▲障がい者スタッフの日隈 賢也さん



▲ピンの選別風景。瞬時にピンの色や形状、それ以外のゴミを見極め、選別します。

## 現場理解から始まる、 誰もが輝ける職場づくり

事前にはっきり受け入れ準備を行い、現場にも情報を共有した上で理解を求



▲日隈さんと上司の佐藤さん。仕事の休憩中は、自然と会話が弾みます。

社1年で複数の選別ラインの仕事へすべり、現場に欠かせない人材へと成長。直属の上司である佐藤さんも精神的にプレッシャーがかからないような環境づくりは行っていますが、仕事についてはもう安心して任せています。明るく、面白いムードメーカーです」と大きな信頼を寄せています。

「中津ゆうび」で働く障がい者スタッフは、「障がい者」という括りではなく、1人の働き手として生き生きと活躍し、会社の戦力として貢献しています。自らの力で働き、一人前の給与を得て自立していく、同社では当たり前のその姿こそが、真の共生社会のあり方なのかもしれません。